

松下ゆきよし

Vol.9

〈発行日〉
平成29年7月20日

県政活動レポート

発行責任者／愛媛県議会議員 松下行吉 連絡先／〒791-2141 伊予郡砥部町岩谷口135 TEL (089) 969-3605

愛媛県議会定例会（平成29年6月）の概要

6月15日から28日までの14日間の会期中で、第352回愛媛県議会定例会が開催されました。今6月議会は、えひめ国体・全国障害者スポーツ大会の本番を控え、特例で一般質問の1日当たり質問者数を3人から4人に増やすなどして、通常より5日ほど期間を短縮しての定例議会となっています。可決議案は、一般会計補正予算と条例6件、その他の案件10件、人事案件2件、意見書2件の21議案です。また、請願3件を不採択としました。

1 補正予算

補正予算は、一般会計のみで60億6,947万円。前年の6月補正よりは40億円ほど少なくなっています。昨年は、追加の公共事業が多く100億円を超える補正予算となりましたが、今年は例年並みの予算規模に戻っています。補正予算の内容を2ページの表3にまとめました。

2 条例等

条例6件は、すべて既存の条例の一部を改正するものです。愛媛県核燃料税条例の一部を改正する条例では、伊方原発1号機の廃炉作業中も核燃料税の課税ができるよう改正しました。

その他は、土地改良事業など地元負担金を定めるものが7件、専決処分した事案の承認が3件です。

人事案件では、人事委員に県若年者就職支援センター長の大内由美氏（松山市）の再任、公安委員に新居浜商工会議所会頭の曾我部謙一氏（新居浜市）の新任に同意しました。

3 意見書

◆農業農村整備対策の推進を求める意見書
農業水利施設等の老朽化に対応して、計画的な補修や改修による施設の長寿命化を円滑に進めるための事業予算を確保することなど。

◆森林環境税（仮称）の早期創設を求める意見書
市町村が継続的に森林の整備・保全に取り組めるよう、安定財源の確保に向けて森林環境税（仮称）を早期に創設するよう要望。

平成29年6月補正予算の概要

(表1) 予算規模

◆一般会計補正予算 60億6,947万円 【累計6,418億 3,947万円】

(表2) 歳入予算(一般会計)

区分	補正予算額	備考
国庫支出金	29億9,936万円	社会資本整備総合交付(金防災・安全交付金含む)など
繰入金	2億7,185万円	財政基盤強化積立金繰入金
県債	26億5,200万円	公共事業への充当予定額
その他	1億4,626万円	公共事業に係る市町負担金 など
合計	60億6,947万円	

(表3) 歳出予算

1 重要課題への対応強化:19事項		4億1,373万円
(1) 経済・雇用対策の推進		1億3,154万円
【ものづくり関連産業を対象にした「えひめ地域活性化雇用創造プロジェクト」の推進による実需の創出と安定的な雇用創造の支援(10事項)】		1億1,154万円
①地域活性化雇用創造協議会の運営、セミナーの開催		
②輸出用加工食品等の商品開発等の支援		
③高機能素材メーカーとのマッチング、新製品開発の促進		
④地酒の海外販路拡大に向けた商品力強化		
⑤機能性食品等の開発、販路開拓 など		
【プロフェッショナル人材の活用による県内中小企業の経営革新の促進】		
①大企業との連携による人材交流、県内企業の人材ニーズの発掘		2,000万円
(2) 自転車新文化の普及拡大		324万円
①台湾からの四国一周サイクリング訪問団との交流		324万円
(3) 教育・福祉の充実		2,988万円
①社会の第一線で活躍する専門的職業人(高校生)の育成		811万円
②民間団体等と連携した運動部活動の指導体制の構築		700万円
③学校現場における教職員の業務改善の推進		770万円
④拡充された介護職員処遇改善加算制度の周知、活用促進		707万円
(4) その他		2億4,907万円
①JR新居浜駅のバリアフリー化支援		467万円
②自動車保有手続ワンストップサービス導入に向けた県税システムの構築		2,002万円
③衆議院小選挙区選出議員補欠選挙の実施		2億2,438万円
2 公共事業の追加による県内景気の下支え:16事項		56億5,574万円
①道路橋りょう新設改良費		27億2,255万円
②河川改良費		3億4,080万円
③河川堤防緊急改築事業費		9,069万円
④海岸保全費		3億4,236万円
⑤砂防費		8億8,128万円
⑥港湾建設費		2億9,280万円
⑦JR松山駅付近連続立体交差事業費		1億2,061万円
⑧街路事業費		6億8,269万円
⑨総合運動公園施設整備費		1,053万円
⑩南予レクリエーション都市公園施設整備費		1億2,740万円
⑪農用地高度利用基盤整備事業費		2,653万円
⑫沿岸漁業構造改善事業費		1,750万円



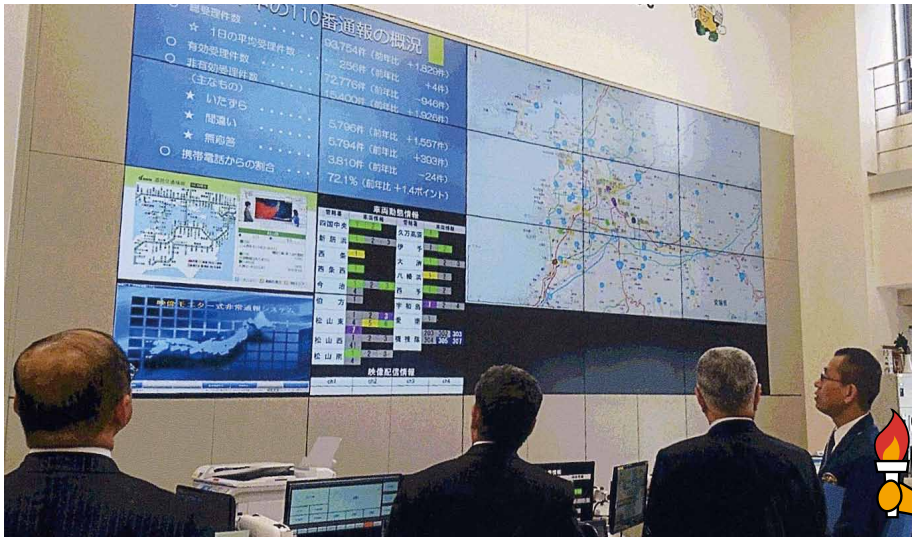
ボールは、大きさ・重さともハンドボールくらいで、なかなか遠くに飛びません。障がいがあるとは思えない、迫力のあるプレーが見られました。

「奥深い」スポーツです。
当日の成績は、優勝・香川県、準優勝・徳島県、第3位・高知県でした。愛媛県は開催県としてえひめ大会出場が決定しているため、この大会には交流戦のみ参加しています。

「グラントソフトボールの リハーサル大会」

5月28日(日曜日)、砥部町陶街道ゆとり公園で、「愛顔えがおつなぐえひめ大会リハーサル大会」【グラントソフトボール競技会(四国地区予選会)】が開催されました。グラントソフトボールは、プレーヤー10名(男女は問わない)のうち、全盲プレーヤーが常時4名以上出場しなければなりません。ソフトボールのルールを基本としますが、ピッチャーは全盲選手でなければならぬというルールがあり、「音」が大変重要となる「静か」で

警察本部を訪問



大型モニターを見て説明を受ける。



左から竹葉通信指令課長、梶谷委員長、私。

4月7日、梶谷大治（八幡浜市・西宇和郡選挙区、愛媛維新の会）文教・警察常任委員会委員長と、警察本部を訪ね、林本部長始め各部長と意見交換をしました。今年の県警は、えひめ国体・全国障害者スポーツ大会に向けて、交通網の管理、皇族の警備などの課題に取り組んでいます。

通信指令課では、壁面の大型モニターで、県内の交通管制システムの説明を受けました。

集記 編後

▼5月8日自民志士の会で、愛媛県の過去の自然災害について勉強会

因が出てきました。「災害は忘れたころにやってくる」寺田寅彦の言葉です。

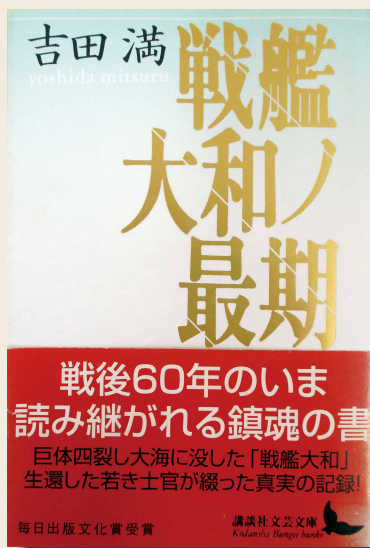
を開きました。講師は、県歴史文化博物館の大本敬久専門学芸員。大本学芸員によると、愛媛県は石鎚山にさえぎられて風水害がないと思われていますが、それは誤解であって、近い例では2004年（平成16年）、1943年（昭和18年）、1899年（明治32年）の水害で多数の犠牲者が出ている。また、南海地震は100年から150年の周期で発生し、県内に甚大な被害をもたらしており、今後「災害の歴史」を調査、研究し、散在している記録をまとめていくことが重要とのこと

▼3月28日香川県豊島に不法投棄された産業廃棄物の撤去が完了しました。6月25日付けの毎日新聞が、産廃撤去に取り組んだ豊島島民の特集記事を掲載しています。1975年（昭和50年）から16年間に豊島に違法投棄された産業廃棄物は91万2373トンにもなり、公費約727億円を投入しての撤去作業でした。残念ながら、まだ地下水汚染の問題が残っており、完全解決とは言えないようです。

ところで、この豊島問題で、住民訴訟の柱となったのが「平成の鬼平」こと故中坊公平弁護士です。中坊弁護士については、住専処理のやり方など賛否評価の分かれるところですが、終始弱い人々の側に立つて巨悪に立ち向かっていたのは事実です。毎日新聞の特集記事は、島民を中心に据えながら、中坊弁護士の人柄が偲ばれる書きぶりとなっており、共感を覚えました。

『戦艦大和ノ最期』

著者：吉田 満 出版：講談社文芸文庫



今年も猛暑の夏を迎えました。夏は、私たち日本人に敗戦、戦争を戦った人々、犠牲となった人々を思い起こさせます。戦中派の人達はもちろんのこと、戦後生まれの我々世代も、また、平成生まれの若い世代も、何かしら感慨を持って夏を迎えると思います。

なぜ、あのような無謀な戦争に突入したのか。引き返すことはできなかったのか。あの時代、世の中を戦争へと動かしたものは何だったのか。「戦争を知る」とはどういうことなのか。答はありませんが、ここに1冊の本を紹介します。

『戦艦大和ノ最期』。戦艦大和は、1945年(昭和20年)4月、沖縄方面へ出撃しますが、アメリカ軍の機動部隊の猛攻撃を受け、鹿児島県坊ノ岬沖で沈没しました。この本は、学徒兵として、22歳で戦艦大和に乗り、大和の撃沈から奇跡的に生還した著者(吉田満)が、戦艦大和の出撃から沈没まで自らの体験を綴った記録小説であり、また、死を目前にした若者の心情、行動を描写した戦記文学です。

吉田は、復員後すぐ文語体でこの物語の初稿を書きます。書き上げるのにわずか1日だったこと、文体については、死生の体験の重みと余情とが、日常語に乗りがたかったこと、戦争をその只中に入って描こうとする場合、戦いというものの持つリズムが文語体の格調を要求したと、吉田は述懐しています。

その初稿は、占領軍の検閲に妨げられて発表できませんでした。3年後の昭和24年、不本意な形ながら口語体の初版が出版されます。その後、昭和27年をはじめて本来の内容、文語体で発刊されるといふ経緯があります。写真の講談社文芸文庫版は、昭和27年の本を底本とした文語体のもので、われわれ日本人の忘れてはならない記憶として、ぜひ二読ください。

【吉田満】

1923年(大正12年)東京生まれ。1942年(昭和17年)東京帝国大学法学部入学、翌年10月学徒出陣により海軍予備学生として武山海兵団に入団。1944年(昭和19年)12月戦艦大和に副電測士として乗艦する。大日本帝国海軍における経験をもとにした著作を残すとともに、日本銀行勤務の傍ら「戦中派」の論客として戦争責任問題等に独自の言論を展開した。代表作である『戦艦大和ノ最期』で知られ、海軍での上官であった白淵磐(うすぶちいわたか)も吉田の著作を通して広く知られるようになった。1979年(昭和54年)没。

(文中敬称略)

愛媛県議会議員

松下行吉

まつした ゆきよし

〒791-2141 愛媛県伊予郡砥部町岩谷口 135

TEL 089-969-3605 FAX 089-969-3606

Email : matsushita31@iyo.ne.jp

<http://www.iyo.ne.jp/matsushita31/>

